

2018年2月2日
日本板硝子株式会社

2018年3月期 第3四半期決算に関する主なご質問

Q： 上期までの進捗は会社計画に対して多少上振れしていたが、この第3四半期の進捗はどうか？

A： 第3四半期累計でも、概ね会社の計画に沿って推移しており、通期の予想営業利益 360 億円の達成は可能だと考えております。

Q： プレゼンテーションスライド7の差異分析での「コストダウンその他」の内訳について。また、コストダウンによる収益改善は来期（2019年3月期）も継続するのか？

A： 「コストダウンその他」には一過性の要因も含まれています。地域別では、欧州地域の建築用及び自動車用ガラス事業、並びに高機能ガラス事業で改善が大きくなっております。また、来期見通しについては、現在、予算を策定中です。インフレなどのコストアップ要因もありますが、これらコストアップ分を上回る製造コスト削減を引き続き実施していきたいと考えております。

Q： 原油価格の上昇は、どのくらいのタイムラグで業績に影響するのか？

A： 当社のフロート窯の大部分は天然ガスを燃料としており、必ずしも原油価格の変動がダイレクトに影響するわけではありません。また、ヘッジ取引も実施しており、今期の使用予定量はほぼ9割、来期（2019年3月期）分も約半分はすでにヘッジされております。（価格上昇のリスクはある程度抑えられるものと見ています。）

Q： 欧州建築用ガラスの価格の見通しについて。

A： 2017年の春に値上げ後は、大きな値上げは行っていませんが、価格は安定しております。通常であれば冬には価格が下落するところ、大きな下落がなく第4四半期はポジティブと予想しています。一方、これ以上の値上げの余地はある程度限定的と見ています。値上げについては状況を見ながら取り組むこととなります。

Q： 日本の建築用ガラス事業の値上げ効果について。

A： ここ数年続いた原燃材料費の高騰を受け、1月に値上げを発表しました。ただし、値上げは3月1日からです。製品によって異なりますが、値上げ幅は7-15%です。発表から間がないので、損益改善効果の算定は困難ですが、今期への影響は軽微です。2019年3月期はプラスの効果を期待したいですが、市場環境にも影響されると考えています。

Q： 第4四半期はソーラー用ガラスの売上が回復するとのことだが、これは一時的か、あるいは本格的な回復か？

A： 今年度、ソーラー用ガラスについては主要顧客の設備切り替えの影響で出荷が減少していました。この減少は一時的なもので、第4四半期での回復は継続的なものと考えています。

Q：自動車用ガラス事業の第3四半期の改善幅が少ないようだが？

A：地域によって状況が異なります。欧州は市場の回復と生産改善の恩恵を受けました。南米の需要回復は期待以上であった一方、北米と日本は残念な結果となりました。北米では自動車市場がピークアウトした影響がありました。日本では市況や販売が活況ながらも、素板のコストアップや設備での課題が発生し利益面で影響を受けました。

Q：北米の自動車用ガラス事業の市況および競争環境は？

A：北米の需要はピークを過ぎたとはいえ、過去と比較しても依然高いレベルを維持しています。競合については、中国メーカーが参入していることについての質問と理解します。中国メーカーの生産は開始されており、将来影響を受ける可能性はありますが、現時点では当社の出荷数量や価格への影響はありません。

以上

当資料の業績見通しは、当社が現時点で入手可能な情報及び合理的であると判断する一定の前提にもとついており、実際の業績は見通しと異なる可能性があります。その要因の主なものとしては、主要市場（欧州、日本、北米、アジア等）の経済環境及び製品需給の変動、為替相場の変動等があります。